

平成 28 年度 輪島市総合教育会議

開催日時 平成 29 年 3 月 23 日(木) 午後 2 時 30 分

開催場所 輪島市役所 4 階第 1 会議室

出席者 市長 梶 文 秋
教育長 吉 岡 邦 男
教育委員 榎 木 孝 則
教育委員 沢 田 悦 子
教育委員 石 本 昇 蔵
教育委員 左 古 隆

事務局説明員

教育部長兼学校教育課長 松 山 真由美
生涯学習課長 華 岡 一 哉
文化課長 定 見 充 雄
庶務課課長補佐 茶 花 隆 一

協議事項

- ① 輪島市立小学校の適正規模・適正配置に関する基本方針について
- ② 児童生徒の学力向上について
- ③ 輪島市教育懇話会(仮称)の開催について

会議録

発言者	発言内容
事務局	定刻になりました。2 時 30 分になりましたので、総合教育会議を開催いたします。市長、ご挨拶をよろしくお願いいたします。
市長	<p>それでは、定刻になりましたので、平成 28 年度の輪島市総合教育会議を開会をさせていただきたいと思います。</p> <p>開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。</p> <p>きょうは、輪島市の教育委員の皆さん、そして市内各地区でいろいろと地域全体をまとめていただいております区長さん方にもオブザーバーとして参加をいただくということで、この会議を始めることができるところであります。</p> <p>昨年、教育に関する法律の改正がありまして、そのことによって、これまでは教育の問題は教育委員会がという考え方から、行政のいわゆる教育以外の分野を担当している市長部局と、そして教育委員会とが一体となって教育の問題について取り組まなければならないと、そういったことがありまして、昨年、まず第 1 回目のこの総合教育会議というのを開催をさせていただき、そのときの会議の内容を受けまして、平成 29 年から 5 か年間にわたる、向こう 5 年間での教育のあ</p>

りようについていろいろと計画をまとめていただいてまいりました。

きょうはそういったことを受けて、輪島市の教育の方向性、とりわけ課題となっていることが3点あるかと思っております。それは少子化という現実的な問題について、これから教育の現場はどうあるべきなのかということにまずは第1点目が大事な課題として議論されなければならないと。

かつて、これはいろんなところで申し上げておりますけれども、私が初めて市役所に入ったときは、教育委員会に配属されたところでありましてけれども、そんなころは、今、門前と合併いたしておりますけれども、当時は合併前の段階で小学校、中学校合わせて33の学校があったわけがあります。ところが、その33の学校が少子化の中で次第に廃校、縮小という統合などが繰り返されてまいりました。

門前では、今、小学校は東小学校と西小学校の2校になったわけでありまして、輪島のほうは8校ということで、小学校全体で10校ということになってまいりました。幾つかの小学校の閉校式にも参加したことがありましたけれども、かつてはこの地域に、この学校に250人もの子供がいたことがあると。しかし、今日、子供の数がわずか、6学年合わせて8名になったとか、9名になったとか。そういう中で、本当に教育の効果は果たして望めるのだろうか。そういう地域の悩みがあったり、あるいは教育を、いわゆる現場でしっかりと指導して、その形をつくっていこうとする教育委員会の側においても教育の効果ということに非常に悩むことが多くて、結局は、例えば西小であれば3つの学校があって、1つに統合された。しかし、その統合した学校も廃校になると、こういうことが繰り返されてきている中で、今日、学校の現場を見ると複式学級で教育を行わなければならないと、こういうような問題が非常に大きな課題となっております。

その協議会の本日の1つ目が、市立小学校の適正規模・適正配置に関する基本方針をどうまとめるかといったことが1つ目の課題でありました。

この適正規模等検討委員会という委員会があり、その中でもいろいろと保護者の皆様と各地区で話し合いを進める中で出てきたご意見などを踏まえて、そのことを議論していただきたいと思っております。

2つ目の本日の協議事項といたしましては、児童生徒の学力向上についてという課題であります。

これもいつも永遠の課題として、子供たちにしっかりといろいろな知識を切磋琢磨する心の中、環境の中でそういったことを日々磨いてもらって、そして立派な子供を育て上げる、そんな思いということが現実にならぬのか。その学力向上のためにどうすればいいのかといったことを議論していただくというのがきょうの2つ目の協議事項であろうかと思っております。

3点目には、輪島市教育懇話会、これはあくまでも仮称でありますけれども、こういったものを設置をいたしまして、教育に本当に家庭も、あるいは教育の現場のほうも、それぞれがしっかりと議論ができる、そして子供たちの成長、そういったことを考えていくために、この懇話会をどうするかといったことを議論をしていただくというのが3つ目の協議会であります。

そういったことについて、この後、事務局の説明も受けながら、皆様方にいろいろご審議いただき、またオブザーバーの皆様からご意見等がありましたら、またご提言などいただくということで進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたしたいと思っております。

<p>市長</p>	<p>それでは、早速でございますけれども、お手元のほうにきょうの会議次第がありますけれども、協議事項3番目の協議事項に移らせていただきたいと思います。</p> <p>協議事項の1番目は、今ほども申し上げましたけれども、市立小学校の適正規模・適正配置に関する基本方針についてということでもありますので、この内容につきまして事務局のほうから説明を受けてまいりたいと思います。</p> <p>教育部長からお願いします。</p>
<p>教育部長</p>	<p>それでは、説明をさせていただきます。</p> <p>初めに、A3の縦書きのもので、これまでの経過、基本方針の策定予定というものをごらんになられてください。</p> <p>左側に輪島市、右側に国、文部科学省と書いてあるものです。</p> <p>こちらの2ページ目をごらんなられてください。</p> <p>それでは、そちらの2ページの右上のほう、国、文部科学省のところですがけれども、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引というものが平成27年1月に策定をされました。その中で書かれている内容が以下に書いてあるものです。</p> <p>規模といたしましては、学級数はおおむね12学級から18学級までを標準とすること。そして、学校の統廃合の手引の検討ということで、小学校は6学級以下、特に1学年1学級を維持できない小中学校については、教育上の課題が極めて大きく、統廃合の手引を速やかに検討する必要があるということが述べられております。</p> <p>その理由が2点ありまして、1つ目は、集団の中で切磋琢磨することの重要性ということで、切磋琢磨することが少ないがために、一人一人の資質や能力を十分伸ばせないということがあるので、小中学校では一定集団が確保されていることが望まれるということ。そして2つ目は、社会性育成の機能の重要性も書かれており、社会性育成機能の低下や少子化の進展が中長期的に継続することを背景として、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題がこれまで以上に顕在化することが懸念されるということで、統廃合について考えるべきだということです。</p> <p>それから次に、学校の適正配置に関しましては、徒歩、自転車である場合は、小学校で最高4キロ、中学校では6キロを限度とするということ。そして、通学時間はスクールバスなど交通手段が確保できる場合は、おおむね1時間以内が適正だということが書かれております。</p> <p>そして、統合の方針としましては、以下の5点が書かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校規模を重視する無理な学校統合を行わないこと。 小規模校の利点を生かし、尊重すること。 児童生徒の通学の負担に配慮すること。 学校の地域的な意義を考慮すること。 地域住民の合意を得ること。 <p>ということが方針として述べられております。</p> <p>もし、小規模校を存続させるのであれば、小中一貫教育やテレビ会議システム等を利用した他校との合同授業などを実施することというふうに、その手引書の中では書かれております。</p> <p>これを受けまして、左側に行きますけれども、平成28年2月に輪島市教育大綱・教育振興基本計画が策定され、その中に小学校の適正規模・適正配置の検討について、保護者、地域、教育委</p>

員会とが情報を共有し、意見交換などを行いながら検討をしていく。そして、その検討を進めていくに当たり、必要がある場合には諮問機関の設置などをして、多様な意見を伺うための方策を講じますということをその基本計画の中で述べましたので、これを受けまして、平成28年3月から6月にかけて市内の10の小学校の校区を回りまして、地域や保護者から意見をいただきました。次、3ページ目になります。

そして、その意見を参考にいたしまして、輪島市教育委員会において基本方針の素案を作成いたしました。

そして、29年の2月から3月にかけて輪島市立小学校適正規模等検討委員会を4回開催いたしまして、構成員の皆様からご意見をいただき、そして3月14日の第4回の検討委員会におきまして基本方針、素案に関して異議なしということで答申をいただきました。その際に、多くのご意見等もぜひ参考にしてほしいということで意見もいただきました。

その後ですが、輪島市教育委員会において基本方針(案)の決定をいたしまして、本日、23日、輪島市総合教育会議において協議をいたしまして、基本方針(案)の決定というふうな流れとなります。

そして、基本方針のほうですけれども、今度はA3横書きのものですが、輪島市立小学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針(素案)というのをごらんになられてください。

基本方針の期間中、つまり輪島市教育振興基本計画の終期までとなりますが、平成29年7月1日から平成33年3月31日までの期間中は小学校の統合を行わないこととする。ただし、次の取り組みを行う中で、統合について、児童の保護者、地域住民との合意形成がなされる場合は統合を進めることとするをいたしました。

その取り組みですけれども、教育環境の整備の一環として、複数校による交流学习、合同学習の拡充をいたします。それを行うことで、その取り組みにより、実質的な教育の機会均等の実現がなされているかということも4年間かけて検証をいたします。この検証を行いながら、児童の教育環境への具体的な影響について、問題意識の共有化を図るため、児童の保護者、地域住民に対して説明会等を開催していきます。

以上が素案の説明となります。

市長

今ほど教育委員会としての小学校の適正規模・適正配置に関する考え方、その説明がありました。

文部科学省の示す方針と、その中でどうしても現状の中でやらなければならないとした場合の対策(案)というのが文科省のほうでも一つの考え方が示されておりました。

それに合わせて、輪島市の教育委員会としてはどうしていくべきかということがその基本方針として示されたところであります。

今ほどの意見について、委員の皆様方からまずご意見等がありましたらご発言いただきたいと思えます。

榎木委員

私は、適正規模等検討委員会の答申は大変満足しております。地域の実態に合わせた、本当の地域の皆様の真意であるというふうに捉えております。

それで、特に小規模である7校、10校中の7校の委員の皆様が全ての学校で安心という言葉で

	<p>その地域の皆さんの安堵感をよくあらわしていると、そんなふうに思いました。</p> <p>しかしその半面、どの委員さんも子供たちの健全な育成を願えば願うほど大きな不安を抱えているということもわかりました。</p> <p>そこで、今後の4年間は、この決定で一応この問題は凍結の状態となりますが、私たち教育委員会はこの時期にこそ、教育環境の整備に真摯に向き合い対応しなければならないと、そんなふうに考えているわけです。</p> <p>それで、この基本方針の①に先ほどの説明がありましたけれども、教育環境の整備の一環として、複数校による交流学习及び合同学習の拡充についてというその具体案についてお尋ねをいたします。</p> <p>第1点目は、交流とか合同とかいう学習形態というのは、従来で輪島は確立しております。そこで、それをどういうふうに拡充し、発展させるのかという、その具体的なものを一つご提示いただきたいと思います。</p> <p>これはある程度輪島の教育施策の目玉に私は今後ともなるべき問題だと思っております。</p> <p>それで、あと2点目につきましては、小学校の適正規模及び適正配置について、小規模校の問題だけじゃなくて、町全体で市民の理解を深める私は絶好のチャンスだと、そういうふうに捉えておりますので、この間、今後、市民の皆様はこの取り組みが可視化できる、見える化できるということを大いに図っていかねばいけないと思いますので、松山部長さん、その2点についてお伺いしたいと思います。</p> <p>よろしく願います。</p>
市 長	<p>今、松山部長が考えている間に、ほかの方ご意見ありますか。</p>
左古委員	<p>続けてでよろしいですか。</p> <p>私も基本方針についてはこれがいいのじゃないかなというふうに思います。</p> <p>私の場合は、②の実質的な教育の機会均等の実現について検証するというふうに書かれているわけですね。課題は切磋琢磨ということと社会性の育成ということになるかと思うんですが、どういうふうに、もうちょっと具体的にどんな形で検証をされる予定なのかということをお聞きしたいんです。</p> <p>資料として、こういう提唱というのがついてはいますが、これの説明もお願いしたいんですが、これに加えて、まだこんな形でも検証する、こういう形でも検証するという、具体的な案がありましたらご説明いただきたいと思います。</p>
市 長	<p>お二人の委員さんから意見が出されました。</p> <p>1つは、交流学习、合同学習を拡充するとは言うけれども、どんなふうに拡充するのかという具体案。恐らくこれが将来の輪島市の教育の目玉になるとしたら、その具体案は何か。それから、小規模校以外のところでもこの適正規模について考えるいい機会になるとするならば、この問題についてやっぱり全体がわかるような、可視化できるような対応というのが榎木先生からのご意見でした。</p> <p>一方、左古先生のほうからは、教育の機会均等の実現についての検証とは言うが、その検証は</p>

教育部長	<p>一体どんなふうにしてということであったかと思いますが、それについてお答えがありましたらお願いします。</p> <p>それでは、まず1点目の拡充をどのようにしていくかということですが、これまで行ってきた交流学习、合同学習についてまず述べさせていただきます。</p> <p>これまでは、市主催として6年生の陸上競技大会、5年生の合唱の集い、それから6年生の輪島塗沈金体験、製作ですけれども、合同で行っております。</p> <p>それから、土曜授業の合同授業、それから生涯学習課のほうでは通学合宿、公民館に泊まって学校に通うという通学合宿や、それから長期自然体験村といったものなどがございます。</p> <p>これに加えて、学校のほうでは修学旅行、それからスキー体験学習、それからバスケットボールなどの交歓会などはこれまで行ってきました。そこをさらに授業等でも総合的な学習や、それから体育で水泳など、それから音楽など合同で授業ができるものは積極的に交流学习、合同学習のほうを進めていくように学校に指導していきたいと思っております。</p> <p>また、門前町のほうでは相撲大会等も門前東小、西小別々にやっておりますので、合同の大会等もできるのではないかと思いますし、県のほうで行っておりますいしかわっ子駅伝という大会がございますが、そちらにも今のところ、河井、鳳至、門前西が参加しておりますが、そういったところにも積極的に参加することで交流学习の一つとして学校にも指導していきたいと考えております。</p> <p>それから、合同学習の中で、テレビ会議システムといったものも今後入ってくるのではないかと思います。市としては、まだぼんやりですけれども、これまで電子黒板やデジタル教科書等を積極的に導入していただいておりますので、さらにタブレット等も整備をいたしまして、合同授業のほうに、合同学習に生かしたらなというふうに思っております。</p> <p>以上が1点目です。</p> <p>次に、2点目のどのように理解をしていただくかということに関してですけれども、この後出てきます教育懇話会、そちらのほうで教育懇話会や、11月に行われます学校力&親力向上セミナー、それから地区ごとに行われております合同保護者会等を積極的に活用いたしまして、交流学习や合同学習の結果、どのような検証をしたものを示しながら、お話を地域ごとに、地区ごとに行きたいというふうに考えております。</p> <p>それから、3点目の検証についてですけれども、検証につきましては、このようなレーダーチャートのほうをごらんになってください。</p> <p>このレーダーチャートは、全国学力学習状況調査の教科のペーパーテストと、それから質問紙調査の結果を受けてまとめたものです。例えば国語A、算数Aといったところは、教科の結果の点数であらわします。真ん中の丸い点線が県の平均となっております。県平均と比べて教科の結果がどうであったかというのが国語A、B、算数A、Bで見ることができます。</p> <p>その他の項目に関しましては、子供たちの質問紙調査。その質問紙調査、全部で85項目ありますけれども、その質問紙調査の結果から、国語への関心はどうであったか、規範意識はどうだかといったものが全国の学力調査の結果が8月の終わりに出ますけれども、そのときにこのような結果が出てきます。</p> <p>先ほど左古委員さんのほうから言われました、全国学力・学習状況調査の結果等の活用による</p>
------	--

検証といったものもあるかと思えます。そこに載っているものが全国の質問事項の一部となっています。

例えば2の学習状況調査の①学習に対する関心・意欲・態度というところで、「国語の勉強は好きですか」という質問があります。「国語の授業はよくわかりますか」といった質問があります。このような質問を受けて、国語に対する興味・関心がどうかといったものが結果として出てきます。

検証としては、この全国調査の結果と、もう一つはこの結果だけでは十分にわからないものもあるのではないかと思われます。

例えば、小規模校であると話し合い活動というのは思うように子供が少ないがために進まないと思うんですけども、「授業の中で児童の間で話し合う活動をよく行っていると思いませんか」といった質問があります。多分、小規模校では「余りない」というふうに答えるかと思うんですけども、1学期、交流学习を進めると、もしかしてこの質問事項が少し多くなったというふうになるかもしれません。ですので、学力調査の質問事項で足りない分は、委員会で質問事項を加えて実施をしていきたいと思えます。

春に一度、4月に一度行って、その後、9月、1月と期間を置いて学期に一度の程度でアンケートを行い、そのアンケートの結果がどうであったかというのをレーダーチャートで同様に輪島市のものとして示したいと思えます。

あと考えておりますのは、交流学习の後の子供たちの作文とか、それから保護者のアンケート、そして地域の方がもし参加するような交流学习であれば、地域の方々からもアンケート等をとって、子供だけではなく、それから先生方もです。交流学习をするに当たり、先生方がどうであったかという多方面からアンケートや作文等を参考にして検証に使っていきたいと考えております。

以上です。

市長

今の答えで、それで榎木委員、左古委員、よろしいですか。

何か追加でありますか。以上でいいですか。どうですか。

こういうような方針で進めていって成果を出すということではありますが。

石本委員

私も質問いいですか。

今、松山部長からいろいろスポーツの交流とか、いろいろな話をお聞きしたんですけど、輪島市内で大体小学校10校あるんですけど、河井、大屋、鳳至、そこを除いた複数校、河原田、三井、南志見、鶴巣、町野、門前西、東等の小規模校の児童たちがスポーツ活動をしとるのを、毎年、市のスポーツ少年団の参加人数が減ってきてるとも聞いております。その辺のどこを何か調べたものがあるんですか。

そしてもう1点は、今、市長さんが体協の新年互礼会にスポーツを通していい人間づくりをという話は2年続けて聞いているんですけど、指導者の質の向上で講演会、アスリートを少しいい話をできるようなアスリートを呼んで講演会して、質の向上につながればいいかなというふうに考えておるんですけど、そういうことはどのように考えていますか。

市 長	そちらの分野も大丈夫ですか。
教育部長	<p>スポーツ少年団のほうは、やはり小規模校のほうでは少なくなって、どちらかというとな少ない傾向ですが、全体としては市内では32%ほどの子供たちが高学年の中では所属しております。</p> <p>教育長もよく申し上げておりますが、とにかく子供たちに暇をつくるなど。スポーツ少年団にどんどん入って体を動かすようなことを積極的にということ、学校のほうには指導はしております。</p> <p>やはり縦の関係、学年の枠を超えて縦の関係をつなぐとか、それから練習試合を、交流試合をするとか、そういったことも積極的に進めていきたいというふうに思っています。</p> <p>アスリート関係につきましても、今、県のほうに話を聞くような機会もありますので、そういった機会もできるだけ子供たちに保護者にも声かけをいたしまして、何かできるような。</p>
石本委員	指導者のね。
教育部長	はい。
市 長	それでは、教育長さんのほうから。
教 育 長	<p>今、30%というのは低学年ね。高学年だともうちょっと多くなるんだと思うんですけども、できるだけ児童クラブというんじゃなくて、児童クラブにおってもいいんですが、スポーツ少年団にどんどん出ていってもらいたいということを学校に働きかけていきたいというふうに思います。</p> <p>それから、アスリートを呼んで、子供たちにやはり話をしたり、実技をしていただくということをやったり体協と連携とりながら進めていきたいというふうに思います。</p>
市 長	<p>今教育長さんのほうからありましたけれども、各学校の校下単位で放課後児童クラブというのをつくって、子供さんがそちらのほうへ「ただいま」と帰って、そこで宿題を覚えてもらうか、あるいはそこで学年の違いを超えて交流ができるという、そういうことはやっているんですが、保護者の立場からすれば6年まで全て放課後児童クラブに入れてほしいという、こういう要望はあるんです。</p> <p>それもいいんですけども、できれば、小学校でも高学年のほうへ行ったら、地域のスポーツ少年団に入ってもっと活発に活動してほしいということで、低学年を中心にして放課後児童クラブを運営しとるとというのが実情なんです。</p> <p>それで、どうしても家庭の事情もという方については、高学年まで受け入れしますよとはしてるんですが、ただ、現実には各地域のスポーツ少年団で野球チームがもう構成できない。女の子も入れんとチームが存立しないとか、こういう現状があるので、非常にそういう意味では困ったなと思っておるんですが。</p> <p>市としては、できるだけマリンタウンで陸上をそこへ行って習うことができる。あるいは、競歩もそういうときにはスピードウオークも市内の子供たち全部参加してもらおうとか、いろんなことでスポーツに興味を持ってもらう。</p>

	<p>そこで、今たまたま陸上でいい指導者がいて、スポーツ賞を毎年表彰していますけれども、表彰を受ける子供たちが俄然多くなってきた。県大会でもいい成績を残す子供たちが多くなってきたということは、一方では、チームの編成はできんけれども、個人の競技のところはかなり頑張っておると言うことは言えてると思うんです。ただ、それが各地域の学校単位で成立するかどうかというのは難しい部分はありますね。</p> <p>ということなんですが、私の役割は、ある程度申し上げますと、ここで教育委員会としてまとめた計画を皆さんがそのとおりに進めればいぞという方針を出していただければ、私にとってはすごくうれしいので、そのようにまとめに入りたいと思っているんですが。</p> <p>それはそれとして、オブザーバーの方のほうから何かご意見ございますか。せっかくいらっしやって。</p>
<p>平野オブザーバー</p>	<p>よろしいですか。</p> <p>今のお話にも関連するんですが、確かに市長さんのお話のように、児童生徒が表彰を受けると。県でもすばらしい成績を納めるようになってきましたけれども、こういった小規模校で低学年の子供を1つの競技に染めると。例えばサッカーならサッカー、野球なら野球、間違っていないかなと思っているんですね。</p> <p>せっかく輪島には陸上競技場あるいはプール、準備されておりますから、総合力を養成するという意味では、低学年の子供はそういう偏ったところへ進めるよりも。</p> <p>この文面を見ると、1時間以内であれば車で移動できるということですから、各学校の先生方が引率して、放課後、低学年というと1年から4年生ぐらいですかね。水泳とか陸上をして、総合的なトレーニングをされると。高学年になって初めて、どこかのサークル活動へ入れてやるという方法もいいんじゃないかなという気がして今お話聞いておったんですけども。</p> <p>以上ですけど。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>この中では、市立小学校という中での適正規模化にどうこうという計画論なんですけれども、その今の平野さんから出していただいたご意見も、これは学校の立場で教師が児童をどこまで面倒見ていくかということと、保護者も一緒になって保護者がどこまで子供たちに責任持つかという、何か難しい部分もちょっとあるのかなと。そこところが全部子供たちを教師が連れてどこかのところへ行くというのは、これはなかなかちょっと責任的にもやっぱり難しい一面が出てくるので、そこところが少し今、子供の育て方の中では課題としてこれからやっぱり保護者も一緒に、保護者がそういう子供たちを、アスリートをつくるために育てるということで、親が連れてプールへ行くとか、あるいはトランポリンさせるとかっていう、そこはまたこの学校の規模の問題とは別課題にしてとまっておきたいと思いますが。</p> <p>いろいろご意見もいただきましたけれども、適正規模という部分で適正配置については、とりあえずこの計画上では4年間は基本的には今のままで行くけれども、途中で教育の効果を踏まえて、保護者の方々が、いや、ちょっとうちはやっぱり、うちの学校は早く統合して教育の効果を上げたいというような地域からのそういう意見があれば、それはそっちの方向もという地域住民との合意形成があれば、統合は考えるという、そういう案でしたね。</p>

	<p>こういう計画で4年間進めていくということについて、これで行きたいと思うんですが、そんなによろしいですかね。</p>
<p>教育長・教育委員</p>	<p>はい。</p>
<p>市長</p>	<p>それで、2番目のきょうの課題についてでありますけれども、きょうの2番目の課題というのは、児童生徒の学力向上についてという、最も悩ましい部分になります、ここについて、全国のほうからの考え方というのをお示しいただきたいと思います。</p>
<p>教育部長</p>	<p>協議事項2、児童生徒の学力向上についての別紙資料をごらんになられてください。まず初めに、現状と課題です。</p> <p>課題は2点あります。</p> <p>1点目は、学習したことを活用して課題を解決する力に弱さが見られる。つまり、学習事項、これまでの既習事項のどれとどれを使えばこの問題が解決するかなといった、その学習したことを組み合わせることで課題を解決するという力が弱いということです。</p> <p>それはなぜそういうふうな、根拠は何かと申し上げますと、全国学力・学習状況調査のB問題というのが、そのような力を見る問題となっております。</p> <p>特に中学校3年生の数学Bですけれども、26、27、28年度と全て県平均正答率を下回っております。27年度は少し正答率、県のと縮まったんですけれども、再び28年度はマイナス4.4ポイントと広がってきております。</p> <p>これが課題です、1点目の。</p> <p>それから2点目は、家庭学習習慣が確立されていないということです。</p> <p>27年度は平日1時間以上学習する児童生徒が約50%ほどでした。27年度の秋より家庭学習時間調査というのを実施いたしました、学校には創意工夫をしながら子供たちの家庭学習時間を伸ばすように指導してまいりましたところ、28年4月からは時間はぐんと伸びました。まずは時間を伸ばすことで質の転換を図ろうということで、まずは量ということでただいまやっておりますのでございます。</p> <p>この2点の課題に対して、その改善策ですけれども、これも大きく2点あります。</p> <p>1点目は、教師の授業力を上げるということです。もう一つは、児童生徒の家庭学習の量と質の向上です。</p> <p>1点目の授業力の向上に向けては3点ございます。</p> <p>1つは、今求められているアクティブ・ラーニング。みずから学習しようとして、そして友達との対話を通してさまざまな意見を聞いて、自分の意見を磨き上げていくという、そういったアクティブ・ラーニングが今求められていますので、その視点を取り入れた授業を実践することです。</p> <p>それから2つ目は、学校には研究主任という学校の研究を進めていくリーダーがおりますが、その研究主任を育てるために研究主任連絡会というものを年2回開催しております。その2回の主な内容ですけれども、学力調査や学習状況調査等の結果を生かした授業改善についての研修です。</p>

	<p>それからもう1つは、学期に1回行ってはいますが、小中連携を意識した指導法の改善ということで、小中の研究主任が相互の授業を参観して授業改善の視点で授業の整理会をします。</p> <p>小中の連携をうまくすることで、例えば小学校の子供たちが中学校にスムーズに上がってけるように指導法をつなげるという意味でも、そういった小中連携を意識した指導法の改善を図っていききたいと思います。</p> <p>それから3点目は、10校ある小学校のうち6校で複式授業が入っておりますので、複式学級のある学校相互が複式授業を参観して、授業整理会を実施することで、こちらも複式授業の授業力をアップさせるために行いたいと思います。</p> <p>それから、2つ目の児童生徒の家庭学習については、こちらも3点ございます。</p> <p>1点目は、家庭学習時間調査の実施及び児童生徒への指導です。</p> <p>輪島市では、小学校高学年で平日60分以上、中学校3年生で平日90分以上の家庭学習をさせたいと思っております。そして、その割合が70%以上を目指しておりますので、その70%以上が維持できるように各学校が創意工夫しながら、児童生徒を指導していくように指導してまいります。</p> <p>2つ目は、積極的な家庭学習につながる授業ということで、予習復習を生かした授業を展開することで子供たちがわかったという実感を高めて、さらに家庭学習をしたいなど、そういう意欲につながるような授業を行うように指導していききたいと思います。</p> <p>これに関しましては、決してこれまでやっていなかったというわけではなく、ちょっと個人差があったので、このあたり徹底をして指導していききたいというふうに考えております。</p> <p>3つ目は、家庭学習時間の確保のため、21時以降のSNSの使用禁止の指導を、これまでも指導しているんですけども、さらに徹底することで、そこから児童生徒の家庭学習時間の確保を図っていききたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
市 長	<p>児童生徒の学力向上に向けた改善策ということで、1つは、教師の授業力の向上、2つ目には児童生徒の家庭学習の質と量、これを向上させるという考え方について提案がありましたが、このことについて何かご質問あるいはご意見みたいなことがありましたら。</p>
沢田委員	<p>家庭学習のことなんですけれども、2の②で積極的な家庭学習につながる授業の実践ということで、家庭学習がしたいと思うような授業をするっていうものすごく理想的なことだと思うんです。親が家庭学習しなさい、しなさいと言うこともなく、子供たちみずから家庭学習がしたくなるような授業にするということなんですけれども、これは、今までもしていなかったわけではなくて、さらに強化するということなんです。</p> <p>どのような問題点があってもうまいかなかったのかをちょっと具体的に教えていただきたいんです。さらにどのようにすればそれがもっと強化されるのかを詳しく教えていただきたいと思うんですけれども。</p>
教育部長	<p>問題点としましては、どちらかというとこれまでは復習を重視した先生方が多かったかと思っております。ですけれども、また中学校においては、その宿題等のチェック等も十分されないまま、ど</p>

<p>市長</p>	<p>ちらかという子供任せの部分があったかと思うんですけども、今はそのあたりも学校側では十分点検をしておりますので、子供たちがどこでつまずいたかということも把握しながら授業をする先生がふえてきております。</p> <p>そういう子供たちがつまずいているところを把握しているので、授業のまず初めに、例えば前時の問題を少しさせてみて、ああ、ここつまずいているだろうなということがわかる部分を先に説明をしてから授業に入ることによって授業の入りがスムーズになるとか、それから特に予習について指導しているんですけども、教科書を読んでいっただけでも、ああ、きょうはこんなことをやるんだ、あすはこんなことをやるんだなっていう意識を持つだけでも、子供たちの心の準備とか、頭の準備とか、そういった準備ができた状況で、やっぱり授業に臨むといったことがわかったことにつながるかと思います。わかれば、やっぱり家庭学習がしたくなるかと考えています。</p>
<p>教育長</p>	<p>全く理想的な話なんですね。</p> <p>これ、快感の体系といいますか、こんなことをしたら、わーっ、うまくいったという、そういう体験をすりゃいいんですよ。1年の中で何遍あるか知らないけど、そうするとやはり家庭学習というのはするようになる。</p> <p>これはある校長先生のお話なんですけど、自分が数学を選んだのは、あるとき、中学校時代かなんかに予習をしていった。たまたま。そしたら大変よくわかった。そこで、自分は数学については必ず予習をするようになったということをお話しされておられましたがね。</p> <p>これは、要するに俗に言う快感の体系といいますか、ある気持ちのよい、すかつとするそういうものを幾つか持つことが大事なんですね。こんなことをしたら自分がよくわかって、そっちの道に進むとか、こういうことをする習慣ができたとかっていう、それを子供たちにいつか体験させなきゃだめなんですよ。</p> <p>スポーツならスポーツで、こんなふうにしてバットを振ったら球がよく飛んだとかね。そうすると、こうやればいいんだという、そういうものを自分の体験の中でやっぱり確立して、要するに体に覚えさせていくというか、そういうものをさせないといけないんじゃないかと。</p> <p>だから、とにかく家庭学習の量をふやすって先ほど言うておりましたけれども、これは「量質転化」という言葉あるんですよ。量をこなしてるとおのずと質が高まってくるんです。無駄がなくなってくるとかね。だから、とにかく言葉悪いんだけど、進んでやることはいいんだけど、一遍やらせてみると。すると、やらせている中で子供は、ああ、こういうふうにするやよくわかるんだとか、そういう快感が出てくるわけですよ。</p>
<p>市長</p>	<p>全くそのとおりなんですけど、そこへ子供たちの気持ちを向かせるまでのそのプロセスが物すごく大事なような気がするんですけど。それを子供たちがどうすれば本当に、ああ、わかった、勉強が好きになっていく、先生のことが好きになっていく。それが勉強全体の全てが好きになっていく、成績が上がっていくという条件ですけど、そこへ行くその一步をどう向かわせるかという、そこが。</p>
<p>教育長</p>	<p>それはもう部長のほうで言うてるように、これは教師の力なんですよ。先生の、本当にその教</p>

	<p>科を伝える、技術を、教科の中身を伝えるのじゃなくて、おもしろさを伝えていくという、そこなんです。数学のおもしろさ、国語のおもしろさ、理科のおもしろさを伝えようとするといいいんです。教え込もうとすると、どっぴりになるとなかなか難しいんですよ。だから、それ、先生の本当の力量だから、要するに教師の授業力の向上と重なってくる。</p>
市 長	<p>ケーブルテレビでわざわざ、子供たちが一番迷いそうなところをわざわざ DVD にまとめてケーブルテレビで放送しとる。ケーブルテレビの加入率が悪くて見んやつがいっぱいおるんだね。</p> <p>本当に先生自身もそういう意味では教えるための苦労というか、どうすれば子供が理解してくれるかということを研究しとるところです。研究してる。だから、先生の質を高めることも大事ねんけれども、子供たちがそれに気づいて、その 2 つの力が相まって初めていい形ができるんだけど、大事な部分やね、2 つともね。どんだけ金使うて DVD つくっても。</p>
教育長	<p>本当に見てほしい。子に見てほしい。</p>
市 長	<p>ただ、子供たちがプレッシャーにだけ感じるような、その方法論は全く無に等しい。どうして。まあ、そういうことやね。</p>
教育長	<p>だから、偶発的なものでいいんですよ。たまたまやってみたらとか、風呂から上がったらたまたまそのテレビがついと思って思わず見たとか、たまたまいいんです。そしたらわかったとかっていう、そういうやっぱり快感として体験していただきたいです。子供にね。</p>
市 長	<p>そんな意味で、ぜひ教師の授業力の向上と児童生徒の家庭学習の量と質、親にもやっぱり気がついてもらわんならんけど、それが協議事項の 2 番の最大の課題やろうね。</p>
教育長	<p>ですから、3 番にかかったわけです。</p>
市 長	<p>3 番にかかわってくるわけや。</p>
教育長	<p>将を射んとするなら馬を射よで、やっぱり馬になる親を射とめないとだめなんです。</p>
市 長	<p>ということで、オブザーバーの皆さんもそれで、こういう方針を進めていこうということについて、何かありますか。表さんはいつから理科が好きになったとかって、そんなちょっと体験。</p>
表オブザーバー	<p>私も理科ということでしたけど、やはりまだご存命ですが、90 超えましたが、米田先生ですか。小学校のときおいでで、あのとき全国的な表彰がソニーの会社でしたけれども、全国からおいでたと。そこで、余談ですけど、テレビ放送がありました。その中に、私、ちょっと出たことあるそうです。1 秒ぐらい。</p> <p>それは私自身のきっかけともならなかったですけど、いろんな米田先生取り組みされました。例えばアルコールランプの関連とか、そこで夏休みちょっと詰めて、いろいろ話ながら、夜もち</p>

	<p>よっと泊まりぎみになってやったことがあります。</p> <p>そんな場を提供していただいたと。そこに参加ができた。それも大きな、先ほども書いたあの一部ではないかなと思います。</p>
市 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>でんじろう先生の科学と一緒にやね。あんな見ると、子供はやたらとその世界に入っていくということなんで。</p> <p>とにかくこのことは、紛れもない、これしか方法がないという事実なんで、これはこんなふうには教育委員会としては進めていただくということで、まとめてよろしいですか。</p>
教育長・教育委員	<p>はい。</p>
市 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、次に、3番ということで、教育懇話会。あくまでも仮称ではありますが、この教育懇話会について説明をお願いしたいと思います。</p>
教育部長	<p>それでは、輪島市教育懇話会の開催に関する事項です。</p> <p>課題ですけれども、激しく変化を続ける今日、学力観の転換、いじめ問題、学校現場における課題の複雑化、多様化など、学校だけで対応できない課題も多くなっています。そのために、この課題に柔軟に対応していくためには、どうしても児童生徒の保護者の協力が不可欠となります。</p> <p>そこで、教育懇話会を開くことで学校、家庭、それぞれがその役割を明確にして、十分にその役割を果たしながら、連携、協力して児童生徒の健全な育成を図っていきたいと考えております。</p> <p>そこで教育懇話会を開催いたします。本市の教育方針や、各学校における児童生徒の学力、体力、規範力の向上へ向けた取り組み、そして児童生徒の学習や生活状況について、市や学校から説明をしながら、その課題について懇話会を話し合いをしていきたいというふうに考えております。</p> <p>開催時期は、29年9月以降となります。これは全国学力調査の結果が出るということもありますし、先ほどの検証の部分の結果が出る時期でもございますので、9月以降に実施したいと思います。</p> <p>対象は、各小中学校校区の児童生徒の保護者と教職員が対象となります。</p> <p>以上です。</p>
市 長	<p>教職員ということは、教育委員会が前面に出てということではなくてということですか。</p> <p>保護者と教職員ということは、それぞれの校下の学校の教員の方が現場に、現場というか、その……。</p>
教育部長	<p>はい。その校区の先生方ですので、その中で本市の教育方針は、もちろん教育委員会が中心に話をさせていただきます。それを受けて、各学校がどんな取り組みをしているかという話もして</p>

	<p>いただいて、家庭に協力を求めたいことについては、市と学校でお願いをして理解をしていただいて協力を得たいと思います。</p>
市長	<p>わかりました。</p> <p>今まで何か、例えば適正規模のための各地区での懇談会とかやってきたことで、その校下の保護者の方というのは大分集まるものですか。参加率というか。</p>
教育部長	<p>保護者ですか。保護者は……。</p>
市長	<p>それは保護者じゃないわけか。その学校の規模のときは。</p>
教育長	<p>去年は、地域と保護者。</p>
市長	<p>今回の場合は、完全に子供たちの保護者やね。</p>
教育長	<p>保護者。そして、地域は、これは市政懇談会の折に教育部長も私も出ますので、そのときに教育委員会からも説明します。</p>
市長	<p>たっぷりやってください。</p>
教育長	<p>これは地域の方々に。そして、保護者の方と地域の方、これは平野さんがおっしゃったんですが、保護者ニーズ、地域ニーズというのがあると。そこで、この教育懇話会(仮称)については、保護者ニーズを主に聞く。市政懇談会の折には、地域ニーズも聞くと。そして対応していく。こんな形でやります。</p>
市長	<p>やっぱり保護者の方に子供の学校での姿とか、そんなことはやっぱりよくよくわかってもらいたい世代がね。うちにおるときの子供の姿しか見たことがなくて、あとは興味あるのは、子供の通知簿ぐらいしか興味ないというがじゃ、これはもうどうしようもないわね。</p>
教育長	<p>これはその校区の、その学校の教頭先生に司会をしていただく。そして、教頭先生が一番現場よくわかるわけです。もちろん校長もわかっておるんですけども。その中で保護者の方々からいろいろなものを引き出し、思っていることを言葉に出させるという、そういうことをしていただきたいと。本音を出す。</p>
市長	<p>ということで、これはその計画どおり進めてもらうということをお願いしたいと思いますが。きょうの協議議題というのはそれだけなんです。</p> <p>せっきくの機会なので、何か皆様のほうから追加で説明すること、あるいはご質問することなどありましたら。</p>

<p>沢田委員</p>	<p>すみません。よろしいですか。</p> <p>先ほどの適正規模にまたお話戻るんですけども、この3番で、保護者、PTAの説明会を開催するっていう言葉があるんですが、これと同じような内容で、検討委員会の中でも三井小学校さんの意見の中で、統合はしてほしいだけけれども、少人数であることに不安があるので、統合もやむを得ないんじゃないかなという意見もあるっていうことを書かれているので、とても保護者の人の中には不安を抱えている人もおいでだと思うので、できれば、この不安に関しての説明ですよね。ちょっと具体的な影響がどんなふうにあったのかという検証の内容とかも含めて、説明会を十分行ってほしいんです。</p> <p>それを行わなければならないと思うのですが、その具体的な内容や回数など、そういう進め方というのが決まっているのかというのをちょっとお聞きしたいなと思うんですけども。</p>
<p>市長</p>	<p>よく今後の回数とか、そんな問題は、今松山部長からお話ししてもらおうとして、大体その地域の中で、区長さんを初めとして、その地域の全体を見ている大人たちの世代から見ると、学校がなくなるというのは地域の拠点を失うということになるので、非常にやっぱり問題視するんですけども。</p> <p>ところが、その学校の保護者の立場からいくと、本当に、例えば三井小学校なら今児童数の数は21人ですと。全体で21人。鶴巣だと18人しかいない。あんな立派な大きな校舎の中にそれだけの子供たちが1年から6年まで分けたら、どうしても複式でやっていかざるを得んと。</p> <p>そのときに、子供の保護者の立場からするともっとたくさんの子供たちと一緒に勉強させたいという思いと、その地域の区長さんを初め、その地域の核施設がなくなるという気持ちが全然相反するものがあるので、このところをしっかりと課題として見ていかざるを得んのでしょうけれども。</p> <p>だから、地域の中でそういう子供たちの将来考えて、地域の合意が得られるんなら統合もありだというこの計画（案）というのはそういうところにあるんだろうと思えば、何回ぐらいやるつもりですか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>検証を行う9月以降と、それから1月以降、最低2回はやっていきたいと思っています。</p>
<p>沢田委員</p>	<p>もし不安があれば、もっと行っていただけますか。</p>
<p>市長</p>	<p>その地域の中でそういう要望というか、そういう声があれば、それは回数は2回に限定するということにはならないと思いますけどね。</p>
<p>沢田委員</p>	<p>そのあたり、保護者が納得いくような説明をやっていっていただきたいなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>なかなかね、みんなが全て納得するということは本当に難しいと思うんです。保護者の中でも7対3かもしれんし、地域のことを考える人たちの中でも3対7かもしれんしね。なかなか難しい課題になるんだろうなと思いつつ、子供の将来とか、いい人材を将来育てるためにということ考えたら難しいことやと思います。</p>

	<p>昔、県の教育委員会へ学校の学級数をふやしてほしいと。高等学校の学級数をふやしてほしいという要望に行こうという、そんな話があつて行ったことあるんですけど、そのときに、県の教育長とか、その人たちがあらわれる前に、全然違うとこの県会議員の人がぼつと来て、「おお、皆さん、きょうは何の陳情に来ましたいね」って。「学校の高校の学級数をふやす陳情ですか。ああ、そうですか。まあね、入り口を狭くするといいい人間は育つけど、甘々にして全部入れるような、そういう世界をつくることは本当にその地域の子供を育てることにつながりますかね」って言うて、それでその人はすつと消えていった。後から教育長が入ってきて、「ああ、皆さんのご要望については承っております」って、そんなうそみたいな話で、茶番みたいな話がありましたけど、それも一理あるなと思ってね。</p> <p>本当にいい人材、いい子供たちを育てようとしたときに、護送船団みたいに全部入れるような、そんな考え方がいいのか、もっと入り口を狭めて、本当に頑張らんとおくれるぞと、そういう世界を親がどうしておるかという、親が門戸を広げて子供をだめにしとるんかもしれないというのがそのときの感じだった。</p>
榎木委員	<p>私、これからこの4年間で、教育委員会は統合のための、早うつくるために検証していくんだというような、そういうようなことは絶対あつてはならないと思いますし、教育長もそれは絶対ないと明言しておられます。</p> <p>私はそのとおりだと思うんですね。そこのところはとても大事で、この交流学习、合同学習で非常に効果を上げて、ちっちゃい学校のほうがなぜこんだけ学力が高いんだと、逆にね。今もちよつとそういう傾向があるんですね。ですから、それも大事な検証で、プラスの検証かな。そういうもので大いに地域の方々の誇りやらなんやらを高めていく。</p> <p>だから、検証というものはそういう意味も持っているということも地域の人たちに十分理解していただきたいし、教育長もそのことは絶対言ってますんで、私、そういう折にやっぱりちっちゃくてもすばらしい学校今でもたくさんあるよね。だから、そういうこともひとつ検証なり、説明のときに十分言つてやれたらと思います。</p>
市長	<p>それだけのやっぱり小規模校なりでも、結果というのがここだというものをきちんとやっぱりデータとして見せてやらんとだめですよ。見せつけるほどやっぱりいい答えが残らなだめです。</p>
教育長	<p>そのための懇話会です。情報を共有する。</p>
榎木委員	<p>そうです、そうです。</p>
教育長	<p>学校、市教委、そして保護者、地域と両方共有する。</p>
榎木委員	<p>ただ、僕、地域の親やったら、あの人ら潰しに来とるんやないかという、そういうことはやっぱり地域の人は感じますよね。だから、その辺が十分にプラスの評価としていけば、地域の人もまた自信になるんじゃないか。</p>

市長	<p>地区懇談会の中でも、小学校というのはできるだけ残していきたいということは私らの立場でもずっと要求したことではあるんですけども、そこはそれぞれきちんとしたデータをもとにしていけばいいと思いますので。</p> <p>ということで、きょうはこのぐらいで。</p> <p>いつもこんなような調子で済みませんね。</p> <p>どうも大変お忙しい中、本当に皆様方にはありがとうございました。</p> <p>きょういただいたご意見等もしっかりと踏まえて、子供のためにしっかり頑張っていく。そんなことが教育委員会と執行部が一体となれという総合教育会議の役割だと思いますので、私どももしっかり頑張っていきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
----	---